東京新報

自明治十二年一月至

二

特43-763
1200800199668
特43
763
東京圖書館

函 六一	門 新
架 〇一	部 五一
號 〇六七五	類 五

始

特43
763

TOKEI SHIMPO

NO. 4

東京新報

第四號

萬物變遷ノ論
上帝ニ倚仗スルノ論
前回略史ノ續
苦樂ノ辨

明治十年一月四日

毎月六回

上帝自レ天監ニ視シ
世上之兒子ヲ察シ
識其ノ得ル認ニ識理上三
會スルヲ上帝ヲ者トヲ與ヒ不レ
得者甲而辨ニ別スル之ヲ

本社舊臘中旬ヨリ東京新報ヲ再興シ發兌未タ四回ナラズメ歲爰ニ逝ケリ今歲ヨリ尤モ勉メテ內外諸名家ノ論說卓言ヲ揭載シ以テ四方ノ需ニ應セントス願クハ江湖ノ諸君子割愛ナク之ヲ披閱アラン

編者誌ス

東京新報第四號

○万物變遷ノ論

光陰ハ奔矢ノ如ク人生ハ白駒ノ隙ヲ過ルガ如ク今復丙去リ丁來リテ明治九年ヲ畢ヘ十年ヲ創メテ一變轉ヲ成スニ至レリ我們熟々宇宙萬物ヲ觀看スルニ凡ソ有形ノ者皆旋轉變遷メ始終セザルハナシ古ノ天地ハ今ノ天地也ト雖ドモ其變更幾千年ノ上ニ出クリ古ノ人民ハ今ニ異ナラズト雖ドモ其變換百ニメ足ラズ古ノ政令法度ハ今ニ殊ニメ今ハ乃チ古ニ異也學術教法格物究理ノ如キモ亦悉ク然ラザルハナシ然ラハ則チ旋轉變換ハ天地ノ經道世上ノ恆法ニメ往古已ニ其變換ヲ極メ來今又其變換スル幾許ヲ知ラザル也矣此ノ如ク萬物ノ變遷ハ皆自カラ避遁ル能ハズメ各其範圍

ニ固セラル故ニ地球ハ今ニ至リ其舊態ヲ脱セズメ依然ノ形貌ヲ存スト雖ニ其變換ハ唯一大洪水有テ大ニ其外面ヲ改易スル已ナラス爾來ノ變換又幾許ナルヲ知ラザル也人民ハ古昔ハ樸質粗野ニメ方今ハ華飾虛奢也今其舊套ヲ存在スト雖ニ其變換又幾回ナルヲ知ラザル也政令法度ハ古昔ハ專暴嚴酷ニメ目今ハ共和寛縱也而メ其變換改易ノ屢次ナルハ前言ノ如シ學術ハ古ハ陋固偏頑ニメ今ハ開明通達也其變換又幾許ナルヲ知ラズ獨リ教法ハ古昔ノ經典ヲ以テ萬世不易ノ法ト爲スト雖ニ人ノ之ヲ視ルヤ或ハ偏僻ナキ能ハズ故ニ東教ハ西教ト分レ新教ハ西教ト離ル而メ益々弊害ナキニ進メリ究理ノ學ハ後世益々明確ニメ方地ハ以テ圓球ニ變シ旋日ハ以テ靜炎ニ易リ其他開明ノ者枚

舉ニ暇アラズ而メ是皆自ラ然ルニアラズ其然ル所以ノ理アリテ皆變換シ幷ニ悉ク舊時ヲ脱シテ一新シ古時ト俄カニ異ナルニアラズシテ皆遁スル能ハザル所也

我政府ノ變轉スルヤ又此ノ如シ蓋シ王室變シテ將門ニ轉シ將門變シテ王室ニ歸シ今又明治九年ヲ以テ十年ニ轉セリ然ラハ則チ政府ノ施行スル所設爲スル所又益々正眞ニ進轉メ國民盡ク幸福ヲ得眞正ノ自由ヲ養ヒ謳歌歡抃メ我政府ノ億萬斯年ヲ祝スルハ我們ノ預知スル所也我們ハ此時ニ會シ何ノ願望スル所アルヤ曰ク我爲信スル所ノ正道ヲメ海内ニ遍布シ幽暗陰翳ノ人民ヲメ大光ヲ見セシメ異端虛道ヲ改變シテ我正道ニ導ヒキ天地萬物ヲ創造幹旋スルノ獨一眞神天下萬民ヲ援護佑助スルノ惟一救主ヲ讃揚

頌美スルアランヲ願望スル也

○神に倚仗そるれ論

中村敬宇

觀よ觀よ小兒は獨り生長する能はす必ふそそ○れ父○母に○倚○仗○し父母れ鞠養を受けそれ教育を得て次第に長成するなり至つて幼なき時は片時も母れ懷を離れす常に母れ顏色を觀るに非ざれはそれ心を安慰せすして啼泣そこれ小兒れ母親に倚仗する情狀何に譬へんもれもなし古語に云く民は三に生ぜ親これを生ミ君これを養なひ師これを教ふこれ三者は生れ成なりこのく人は父母君師ヨ倚仗して始めて人となり生るを得るといふが如く又それ上に上帝なるもれありて即はち大父○母○あり大○君○主○あり大○宗○師○あり西人れいわゆる衆王れ王あるもれありこれ世を主宰した

まふより上帝といふ形體の見るべくなくして常ヨ靈なる妙有なるものを外ヨ名つけべきなきに由て姑ク詩書中にある上帝の字を借て導稱と爲せるものなり我の生命の源世上萬善の本人間萬福の源ハ皆上帝より出るなり智者の活眼にハ上帝を目に觀るが如し愚者の心にハ上帝を知る事能ハず又上帝のことを天ともいふ我等れ中にたとひ自ふ智に誇ヲ計策を好むと雖ども孫じめ明日れ不意に出來ることを前知してこれを防くこと能ハず要してこれをいへば人智ハ甚ハさ短小なるもれなり我より强き人我より智ある人と雖ども全くそれ人に倚仗すべきや決して倚仗すべふず然ども我自ふ我一己に倚仗すべきやある限界にまでハ勉强忍耐して己れに倚仗すべし然

れども我一己まさに全く倚仗すべのふず然ふば誰に倚仗すべきや　上帝れ我を愛する事我の自のふ愛するよりも過きたり　上帝れ保護なのりせば我輩いのでの能く此世を安穏に度るとを得んや　上帝ハ我を愛顧する君主れ如し

この世れ君主ハ我を寵愛すると雖とも我を到底周全遮護する能ハず試ミに思へ我を最愛する主人ばふば我れてきに倚仗しこきを力と恃みこれに事へ益〻これの恩顧を受けんと思ふ事はや増ミぬべし我たとひ上帝を愛する事を知らざるれ前すふ我を愛しわたまひ我が心思言行を監視したまふ而して況んや上帝は至大れ仁至大れ智至大れ力れおはしますそれ倚仗すべき誰のこれより大なふん人苟も上帝を信じ念々上帝に倚頼し時々敬虔れ心を盡し事々天心と合ハんとを欲する時ハ心定まり氣和し膽壯んよ力強く他人を愛し他人よ謙下り友愛の情自のふ長ずべきなり唐の代に郭子儀といへる大英雄ばミ々り平生善く天に事へ　上帝に倚仗せしが遂に大功を成し汾陽王に封ぜふる其表文にいとく「前後百戰出二入生死一所レ仗惟天以至二今日一」と ばミ郭子儀ハ平生敬天の心深のミしのハチストリアン派れ教士れ言に感じ西教を敬信し自のふ寺觀を建たりそれ遺きる碑今なほ陝西西安府にばりそれ碑文と天道溯原にも戰せ人れ知る所なり語にいとく智者と天を畏ると郭令公れ如きもれと豈に智者といはざるべ〻んや

○前回略史ノ續キ

信徒曹巽口同音ニ答テ曰ク上帝ノ爲メニ死ヲ致ス人ハ我等

ノ最モ欣悅スル所也法官曰ク爾等皆異神ヲ棄テ國神ヲ奉スヘシ信徒曰ク官命嚴ナリト雖ヒ上帝ヲ棄ツルハ斷シテ能ハザル也遂ニ肯ゼズ是ニ於テ河津吏員ニ命シ其家宅ヲ檢探シ信徒ヲ捕獲セシム六月十三日夜吏員安藤某谷津某小峯某劍槍砲士等百七十人ヲ率ヒ風雨ニ乘シ密ニ浦上ニ向ヘリ信徒等事ノ此ニ至ルヲ知ズ或ハ堂ニ在テ祈禱シ或ハ家ニ在テ誦經セリ俄カニ捕吏ノ門戸ヲ破リ刀槍ヲ露ハシ來ルヲ見テ大ニ驚キ逃レ隱ル然レトモ皆收捕セラル(一村悉ク收捕セラルニアラズ)凡ソ捕獲セラルヽ者男女八十五人(男七十三人女十二人)而シテ悉ク耶蘇及ヒ馬利亞ノ像並ニ諸器具ヲ收メ之ヲ村長ニ付シテ守ラシム後チ信徒數百人簇集シ來リ之ヲ取去レリ(一說ニ此役信徒四五十人竹槍

斧鉞等ヲ携ヘ捕吏ニ敵セントス砲士ノ間道ヨリ進攻スルヲ見テ遁レ去ル又捕卒二人一ハ面ニ傷ヲウケ一ハ腰ヲ折ルト云)是ニ於テ捕吏安藤等劍槍士砲士ノ半ヲ以テ浦上餘民ノ警ニ備ヘ其半ヲ以テ信徒ヲ縛シ之ヲ衞守シテ返リ悉ク之ヲ櫻街ノ獄ニ下シ砲士ヲ以テ警守ト爲セリ(此時伯納德ハ此地ニ在ラズト云)又捕吏安藤等數人賞典トシテ金圓及ヒ衣領ヲ玉ハルト云)次日調役及ヒ捕吏又タ浦上ニ至リ餘民ノ動靜ヲ探尋スルニ某ナル者三人アリ出テ調役ニ謂テ曰ク小村ノ賤民昨夜悉ク拿捕セラル我ガ如キモ亦信徒ノ一也願クハ彼等ト共ニ其罪ヲ得ン若シ然ラスンハ願クハ昨夜收捕スル所ノ者ノ命ヲ助ケヨ調役曰ク爾等信徒ヲ一ニスルヲ以テ同罪ヲ乞フハ誠ニ理ナリ(以下次號)

○苦樂ノ辨

松山山人

誰カ憂苦ヲ求メンヤ誰カ喜樂ヲ求メザランヤ而シテ其求ムル所ノ者ハ得ズ却テ求メザル所ノ者ノ免レ難キハ抑何ソヤ唯、其道ヲ得ザルニ由ノミ人ノ此世ニアルヤ素ヨリ患難痛苦ノコト均シク是ナキ能ハザルモ善人ノ爲ニハ悪ク働キテ益トナラザルハナシ故ニ禍ハ轉ジテ福トナリ苦ハ反テ樂トナルナリ庶幾クハ世ノ人チノ共ニ此眞境ニ入シメン事ヲ欲シ今茲ニ謟劣ヲ省リミズ鄙文ヲ草シテ其事ヲ陳ブ矣

大凡世ノアリサマヲ見ルニ貴賤富貧ノ隔テナク憂苦多クシテ快樂少ナシ然ト雖モ是豈天神ノ聖旨ナランヤ聖書ニモ神ハ愛ナリト錄サレタリ智者ハ宇宙ノ萬物ヲ見テダニ造物者ノ仁愛ハ知ラルヽナランヤ只ニ目ニ見ル所ノモノミナラズ目ニ見ザル所ノ永遠ノ眞福ヲ具ヘテ人ノ歡喜ヲ充タセ其心ヲ滿足セシメ玉ヘリコノ眞福ヲ得ルハ希望ニアリ希望ハ信德ニヨリテ來ル信德ハ神ヲ知ルヨリ起ルナリ悲ヒ哉人ミナ罪欲ノタメニ神ヨリ離レ其心イヨ〳〵蒙昧ク其意益々虛妄レ自カラ知慧ト唱ヘテ愚魯ナルモノトナレリ斯ルガ故ニ恆ニ神ノ怒リ其ノ上ニアリテ希望マサニ絶ユコノ希望絶ルニヨリテ心ニ快樂ナク神ノ怒アルニヨリテ心ニ憂苦多キナリ人多クハ浩ル道理ヲ悟ラズ專ラニ浮虛ノ財ヲ以テ快樂ヲ求メントス是ヨリメ貪婪讒誕姐嫉ノ如キモノ世ニ多タ互ニ害ナヒ共ニ爭ソヒ夕ニイチテ朝ニ起キ營ム所ハタヾ名ト利トノミニシテ愛情日々ニ冷ヤカ

ニ醜態(ミグルシキコト)日イトニ顯(アラ)ハル然(シカ)シテ願(ネガ)フ所ノ快樂ハイヨ〳〵去リイト懷(フトコ)ロノ憂苦ハマス〳〵加(クハ)ハリ諸(モロ)トモニ不幸ノ歎息(ナゲキ)ヲ世ニミダシムルニ至レリ噫(アヽ)世ノ人イカニ昏迷(マドヘ)ルカナイカニ顛倒(タガヒ)セル哉(カナ)是レミナ木ニヨリテ魚(カナ)ヲ求メ弓ナクシテ鳥ヲチラフガ如シ(以下闕出)

正誤第三號(浦上ニ洋館十餘アリ)トハ事實(コトガラ)相違ニ付消抹(トリケス)ス

同雜報ニ會堂ヲ建(タ)テノ建字ハ助ケノ誤

○本社新報第四號ヨリ紙數ヲ增シテ諸君子ノ五枚ノ新報甚タ不足ナル哉(カナ)ノ愛嘆ニ酬(ムク)ユ只價(アタヒ)モ少シク異(コト)ナレハ左紙ヲ高覽シテ之ヲ允(ユ)ルセ○但シ三號迄ハ已ニ記揭ノ如シ

編輯兼印刷　鈴木舍定

改正定價

一冊二錢五厘六冊前金十四錢十八冊前金四十三錢三十六冊前金八十錢

府外遞送ハ此外ニ郵便稅ヲ受タ

本局　東京銀座三丁目十六番地　十字社

賣捌

東京芝日影町一丁目一番地　十字屋支店
横濱吉田町一丁目　堤誠太郎
神戸中山手通六丁目　雜報社
東京虎ノ門外琴平町　博文堂
同淺草駒形町三十二番地　石黑兼藏
同靈岸島長崎町壹丁目十四番地　徇鐸支社　野呂清七
横濱辨天通二丁目　丸屋善吉
東京今川小路一丁目五番地　塚田翠麓

終